

## 学ぶ心

八田英二

奨励者紹介〔はった・えいじ〕

学校法人同志社総長

終わりに、兄弟たち、すべて真実なこと、すべて気高いこと、すべて正しいこと、すべて清いこと、すべて愛すべきこと、すべて名誉なことを、また、徳や称賛に値することがあれば、それを心に留めなさい。

わたしから学んだこと、受けたこと、わたしについて聞いたこと、見たことを実行しなさい。そうすれば、平和の神はあなたがたと共におられます。

(フィリピの信徒への手紙 4章8—9節)

### 悲しい出来事

こんばんは。同志社18代総長の八田と言います。新入生の方がおられると思いますので、今日は「学ぶ心」についてお話をしたいと思います。

その前に、4月25日は私たちにとって非常に悲しい出来事のあった日です。今から12年前、JR福知山線の脱線事故がありました。新入生の方なら6歳の頃ぐらいでしょうか。朝2時間目の授業に間に合うように、同志社の学生、新入生は特に前2両の車両に乗っておりました。手前の駅で後ろ2両は切り離されるのと、前の方に乗っていると電車を降りて坂を登ってすぐ京田辺キャンパスに出るということで、同志社の学生は1、2両目に乗っていました。2005年4月25日、事故で108名が亡くなりました。その中に同志社大学の学生が3名おりました。当時、私は学長をしておりまして、朝、大学で会議をしていました。その際に一報が入り、次の日の朝まで学長室で徹夜をしました。3名の学生は、法学部と社会学部と文学部の女子学生で、その3名の方のお通夜にまいりました。お葬式にも伺いました。その時、女子学生のお母さんが、その女子学生は関西大学附属の高校出身だったので「あの時、同志社にやらなくて関西大学に行っていれば」と泣きながら言っておられた言葉を聞いて、涙が枯れることがなかった思いをしておりました。そのような悲しいことが12年前にありました。

あの時の新入生は大学に入ってまだ25日、勉強をしようと入学し、いよいよ高等教育を受ける段階で望みを断ち切られた学生たちは学ぶことができなかった。今は神さまのもとで十分勉強してくれているかなと考えております。明日、福知山線事故の犠牲者の3名の方も含めてすべての亡くなった方々のための追悼礼拝があります。もう1名、2005年4月28日、ゴールデンウィークが始まるということで東北地方に夜行バスで帰省途中に、そのバスが事故を起こして、経済学部1年の学生が亡くなりました。この4名の学生を失ったという悲しい体験をしました。あの4名が今、事故に遭わなければ30歳ぐらいで社会に出て働いているのかなとつくづくと考えております。そういう彼らができなかった学びを、代わりに勉強していただきたい、貴重な時間です。

### 誰のために学ぶのか

今日は「学ぶ心」ということで二つの話を皆さんにしてみたいと思います。一つ目は「誰のために学ぶのか」。二つ目は「何を学ぶのか」。

私の知り合いでアーモスト大学のレイ・モアースさんという先生がいました。日本通の方で何回も同志社大学に来られて授業ももっていただきました。アーモストに伺った時も、お世話になりました。元はアメリカ陸軍軍人で日本に駐留しておられたのでしょうか。その方が今から7年ほど前に同志社に来られて、アーモスト館という、アーモスト大学の方用の宿泊施設に奥さまと一緒に見えになりました。奥さまはほぼ同じ年代の方でした。一緒に食事をしている時、「実を言うと、今回は四国八十八箇所を一緒に回ろうと思っている」と話されました。後でお聞きすると、「家内と旅行ができる最後だ。家内は不治のがんである。自分は研究者でもあるし、家内と一度お遍路さんで八十八箇所を回ってみたい」と。

今でも日本人の間でも四国八十八箇所を回ることがブームになっており、菅直人さんもお遍路さんで回られました。あのお遍路の姿でよく見かける漢字4文字があります。「同行二人」。二人で歩く。誰と歩いているか。「弘法大師さんと一緒に歩く」が「同行二人」の意味するところ。弘法大師、つまり空海です。「同行二人」という言葉、同志社大学はキリスト教ですから仏教とは関係ないのですが、いい言葉です。「同行二人」。皆さんは「誰のために学ぶのか」を考えたことがあるでしょうか。皆さんは誰と一緒に勉強するのか、誰のために学ぶのかということを考えていただきたい。それは誰か。それは「未来の皆さんと一緒に学ぶ」です。今、学んでいるのは自分のためかもしれませんが、20年後、30年後の皆さんと「同行二人」で大学に来ている。そして学んでいる。そのことをまず頭に入れていただきたい。単に大学に来てカリキュラムを勉強しているのではなく、未来の自分のため、それと二人連れて勉強しているということを入れていただきたい。これが1番目に言いたいことです。未来の自分のために学ぶ。

### 何を学ぶのか

もう一つの「何を学ぶのか」。入学式の挨拶でもお話をしました。かつて学長の時は、入学式や卒業式の式辞でもお話をしたことがあります。同志社大学は素晴らしい教育資源、教育環境を備えています。素晴らしい先生方もいます。高度な知識を教える。当然です。皆さん方、新入生の方、何科目か専門科目が入っているかもしれません。私は経済学部の教授ですから1年生に経済学の初歩的なことを教えています。皆さんに大学が教えているのは専門知識、知識の「知」をお教えしている。皆さんが学ぶべきことの一つです。理工学部ですとテクノロジーの話、文化情報学部ですとデータサイエンスの話。いろいろな専門科目を教えている。同志社大学に課せられた社会的使命だと思います。優れた先生方がおられます。私が最初に学長をしたのが1998年、その時は専任教員が420名おられました。今は専任教員が660名、かつての1.5倍の先生方がおられます。教員数は増えていますが、学生数はそれほど増えていません。学生と教員の比率、先生一人あたりの学生の比率はぐっと下がっています。教育環境に関しては少人数教育に向かっているのではないかと思います。今、文系は1対10くらいの教員と学生の比率で行われていると思います。ぜひとも恵まれた環境で、できるだけ少人数の環境で知識を身につけていただきたい。それを社会のために、世の中のために使っていただきたい。これが皆さんに訴えたい、学ぶべきことの、しかも大学に課せられている重要な社会的使命だと思います。

皆さんが学ぶべきものは何か。もう一つの「知」、知識ではなく「知恵」の部分が重要です。知識を身につけてどのように使うのか。これは知識を身につける以上にその知識をどのように社会のために、世の中のために使うのかを判断すべき「知恵」の部分が、大学が学生にお教えすべき知識より、より重要な部分ではないかと考えています。単に知識の部分だけだと、遺伝子組み換えなどでいろいろなことができる。人類のためには、科学が進歩して最終的にどこまで突き進んでいけばいいのかが問題で、この知識の部分を判断し、どこまで使えばいいのか、それを制御する「知恵」の部分、倫理、道徳の部分、人間性の部分も身につけていただきたい。これが重要なことではないかと思えます。

再生医療や、iPS細胞でいろいろなことができる。どこまで突き進んでいいのかという問題、その答えは即座に誰も答えられない。何か本を開けば書いてあるものではありません。これは皆さんの人格形成、人間性の涵養、「知恵」でもってこそ判断できるものだと思います。これも大学の4年間で皆さんが身につけていただくべきもの、知識の部分よりもより重要な大学の社会的使命だと考えています。ただこういうものは授業でお教えできるものではありません。それに関連する授業、同志社では「良心教育」などの科目を教えています。知恵の形成、人格形成に役立つと思います。それ以外にも、どんな本を読んだか、どういう友だち、先生と交わったか、どこに住んだか、大学4年間で何を食べたか、これもすべて知恵の部分の形成、人格形成に寄与するものだと思います。その意味では4年間の大学生活のすべてが人格形成に寄与していると考えています。私は経済学者ですが、たとえば京都大学経済学部、東京大学経済学部、慶応大学経済学部、早稲田大学経済学部と同志社大学経済学部が教えているカリキュラムにそれほど大きな違いはない。経済学のカリキュラムによって皆さんが得られる知識の部分はそれほど大きな差はないと考えています。どこで生活をしてどういう大学で4年間過ごしたか、この部分に関しては各大学の持っている特徴が現れると考えています。

### 同志社人として

同志社大学で皆さんが4年間を過ごし、同志社大学が独特持っている文化を背景にして皆さんは人格形成され、「同志社人」として出ていかれる。「同志社人」という言葉が同志社の卒業生に与えられています。これは同志社で知識を得ただけで「同志社人」という名前を与えられるのではないと考えています。同志社の中で人格形成を行った、同じ根っここのところ、基盤は同じだというアイデンティティで「同志社人」という言葉が与えられている、使われているのだと思います。学生文化もそうです。京都大学には京都大学の学生文化があるでしょう。同志社大学には同志社大学の学生文化があると思います。学生文化は皆さんの人格形成との関連が強いと考えています。

もう一度申しますと、皆さんは「同行二人」、将来の皆さんと二人、大学で学んでおられる。将来の自分のためだと考えてください。単に4年間過ごして卒業証書をもろうというのではなく、もう一つは、知識と同時に知恵を学ぶ。人格形成、これを同志社で磨いていただきたい。これは私がかねてから学生の皆さんに主張しているメッセージです。同志社大学はリベラルアーツの大学です。もともと新島襄はリベラルアーツの大学をつくらうということでしたが、そういう知識の部分と知恵の部分の両方を学び、知恵でもって知識を制御することがリベラルアーツ大学の特徴だと思います。まさに今、同志社はそれを目指していると考えています。皆さんはこれからの4年間、「学ぶ心」をもって「誰のために学ぶのか」「何を学ぶの

か」、これを念頭において、4名の犠牲になられた方々ができなかったことを、ぜひとも、十分身につけて  
いただいて、4年間を有意義に過ごしていただければ幸いに思います。

皆さんに神さまの恵みが豊かにあることをお祈りいたしまして、私の奨励といたします。ありがとう。

2017年4月18日 今出川火曜チャペル・アワー「奨励」記録